

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館は、東京都とともに、オリンピック・パラリンピックが開催される東京を文化の面から盛り上げる「Tokyo Tokyo FESTIVAL」を展開しています。



MOT サテライト 2020 ハイファイブー ころのこえ

2021 年 1 月 9 日（土）— 2 月 14 日（日）

「MOT サテライト」は、美術館周辺の地域とつながり、まちの魅力を掘り起こすシリーズ企画です。2017 年より「往来往来」「むすぶ風景」「うごきだす物語」「ひろがる地図」とテーマを設け、清澄白河のまちなかと美術館で 4 回に渡り開催してきました。最終回となる第 5 回「ハイファイブー ころのこえ」では、美術館館内の 2 か所のパブリックスペースで 2 組・4 名の作家が展示を行います。

私たちの社会はさまざまな主義・主張や、目には見えない形で分断されています。感染症の世界的流行はその分断を浮き彫りにし加速させる一方、困難を乗り越えようと、新しいアイデアや緩やかな連帯も生まれています。「ハイファイブ」とは、喜びや達成感を誰かと共有したい時に、互いの手をたたき合わせる「ハイタッチ（和製英語）」を意味します。私たちが日々、さまざまな物・人・出来事に出会い、感じ、考え、抱く「ころのこえ」を他者と交換／交感／交歓するアクション＝ハイファイブ、とも言えるでしょう。その第一歩となるのは、自分とは異なる他者の「ころのこえ」に耳を傾けてみるることなのかもしれません。

この展覧会では、2 組・4 名の作家が美術館の周辺地域で「ころのこえ」に意識を向けた新作を制作します。＜ワタリドリ計画＞麻生知子・武内明子は、清澄白河をふくむ深川界隈を旅して、印象に残った風景や経験を元に、カルタや旅のしおり、絵画・陶・映像作品を作ります。カルタ作品の題材となった場所を地図に記した旅のしおりは、館内外に設置され、美術館とその周辺地域のまちとを緩やかに結びつけます。高橋琢哉＋松山真也は、清澄白河を流れる小名木川流域の調査から、水と人との関わりの文化や人々の個々の物語に目を向け、複合的なメディアを用いたインスタレーションで鑑賞者の記憶や感覚を呼び覚ますことを試みます。これらの様々な表現からなる多声的な作品は、多種多様な来館者が行き交う美術館のパブリックスペースに展示され、館内にまちの様相を疑似的に浮かび上がらせることとなるでしょう。美術館やまちを訪れる人たちが、作家や地域の人々、そして自分自身の「ころのこえ」にも耳を澄ますことで、未知の感覚や意識と巡りあう機会となることを目指します。

出展作家

＜ワタリドリ計画＞麻生知子・武内明子、高橋琢哉＋松山真也

今回の展示について

<ワタリドリ計画> 麻生知子・武内明子

<ワタリドリ計画>とは、渡り鳥が暖かい場所と餌を求めて飛んでいくように、画家の麻生知子と武内明子が、展示場所と題材を求めて各地を旅して、その土地・その展示会場ならではの作品を制作し、展覧会を催すプロジェクト。今回は美術館のある清澄白河をふくむ深川地域を旅して、印象に残った風景や経験を元に制作した《手彩色深川旅カルタ》やその絵札の元絵である《旅の手彩色絵葉書》のほか、絵画や陶、映像作品を展示します。さらに、作品の着想を得たスポットを地図上に記した《ワタリドリ計画の深川旅のしおり》が美術館内外に設置され、美術館やまちを訪れた人々は、美術館では作品を鑑賞し、まちでは作品の題材となった場所を巡ることが出来ます。旅のしおりを道しるべに2人の足取りをたどることで、まちを新たな視点で味わうことになるでしょう。地下1Fの情報コーナーでは新作カルタのインスタレーションと、<ワタリドリ計画>の12年間のあしあとや特選手彩色絵葉書をご覧ください。

※「ワタリドリ計画」とはユニット名ではなく、それぞれ独立して表現活動する作家が共同で行うプロジェクト名。



1 麻生知子《秋雨をあつめて早し隅田川》2020年



2 武内明子《曇り空と排水機場》2020年



3 ワタリドリ計画《お参り》2020年



4 ワタリドリ計画《舟》2020年



5 ワタリドリ計画《手彩色深川旅カルタ「と」》2020年



6 ワタリドリ計画《手彩色深川旅カルタ「も」》2020年

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤
TEL：03-5245-1134（直通）/ FAX：03-5245-1141
E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp URL：https://www.mot-art-museum.jp

※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

MOT+
MUSEUM CONTEMPORARY TOKYO
OF
東京都現代美術館

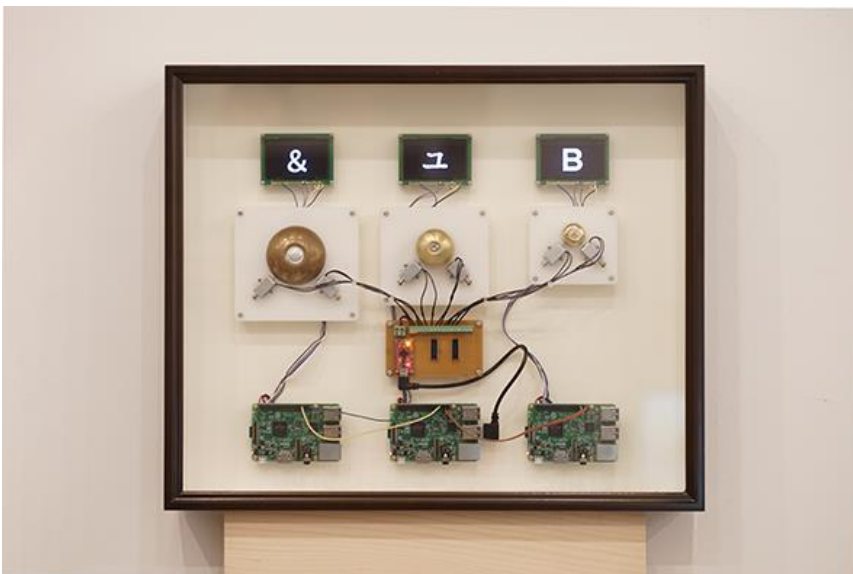
ARTS COUNCIL TOKYO

高橋琢哉＋松山真也

音楽家の高橋琢哉とデザイナー／エンジニアの松山真也は、清澄白河を流れる小名木川流域を調査。深川の水網と界隈の人々との間で古くから育まれてきた文化／関係性をテーマにイメージや個々人の物語を収集し、視覚と聴覚を横断するマルチプル・メディア・インスタレーション《雷が船と鯰の夢を見た話》を制作します。収集したイメージや物語の断片は、映像・写真・グラフィック・音として、会場に並置された2つのモニターに映し出され、鑑賞者のベンチや水盤周りでの動作によって会場に仕込まれたセンサーが作動し、1つ1つ異なる映像のピースが新たに生成され、モニターの元の映像にリアルタイムで組み込まれていきます。地域の人々と鑑賞者の「物語」が百人百様に変化し、際限なく紡がれていく空間で、人々の無意識下にある感覚を揺さぶり、個々の感情や思い出を引き出すことを試みます。地下1Fの情報コーナーでは新作《彼女はしゃべるように引き算をする》をご覧ください。



7 高橋琢哉＋松山真也《雷が船と鯰の夢を見た話》2020年
制作風景



8 高橋琢哉＋松山真也《Subtracting Narrative》2017年
[参考図版]

作家略歴

■ <ワタリドリ計画> 麻生知子・武内明子

画家・麻生知子と武内明子が日本全国を旅して作品の題材と展示場所を探し、制作し、その土地で発表するプロジェクト。2009年の第1回展札幌展を皮切りに2020年までに全国約20カ所で展覧会やワークショップを実施。主な展覧会は、「旅・家・長岡」(2009、新潟県立近代美術館)、熊本アーティスト・インデックス「火の国湯巡り」(2010、熊本市現代美術館)、「公開制作 府中見学」(2011、府中市美術館)、VOCA2012(上野の森美術館)、「小国展旅カルタ」(2012、坂本善三美術館)、岡本太郎現代芸術賞展「ワタリドリ計画結成10周年祝い」(2018、川崎市岡本太郎美術館)、AM 倉敷 Vol.16 ワタリドリ計画「絵から旅する大原⇄岡山」(2020、大原美術館)等。書籍『ワタリドリの本』(2013年、坂本善三美術館)、ワタリドリ計画『小国旅カルタ』(2014年、小国町)発行。

□ 麻生知子(1982年 埼玉県生まれ) 画家

東京造形大学美術学科絵画専攻卒業。主な個展に「くらしの眺め」(2017、村越画廊)、「大人、小人」(2014、村越画廊)、「内祝」(2012、Gallery Jin)、「旅行みやげ」(2008、文京アート)「あ、そう」(2006、トーキョーワンダーサイト本郷)等。主なグループ展に「Go-somewhere!」(2019、在カナダ日本国大使館、オタワ)、「おいしいアート 食と美術の出会い」(2014、横須賀美術館)、武内明子との二人展「紙のうえ、布のうえ展」(2005、東京造形大学)等。絵本「こたつ」(2020)、「うえからみたりよこからみたり」(2018)ともに福音館書店より発行。神奈川美術展大賞(2017)、ART AWARD NEXT #2 秋元雄史(金沢21世紀美術館館長)賞(2012)、群馬青年ビエンナーレ2008奨励賞、トーキョーワンダーウォール2005 トーキョーワンダーウォール賞等受賞。作品は坂本善三美術館、東京都健康長寿医療センターに収蔵。

□ 武内明子(1983年 熊本県生まれ) 画家

東京造形大学美術学科絵画専攻卒業。主な個展に「Akiko Takeuchi Solo Exhibition」(2019、Galleries Roger Bellemare et Christian Lambert、モントリオール)、武内明子展「文無日記/風にねんかか」(2015、つなぎ美術館)、武内明子展「しらないをあさくって」(2010、宇城市不知火美術館)等。主なグループ展に「Go-somewhere!」(2019、在カナダ日本国大使館、オタワ)、「VOCA2017」(2017、上野の森美術館)、麻生知子・武内明子展(2012、坂本善三美術館)等。アパレルブランド chambre de chaeme のテキスタイル原画制作「武内明子×chambre de chaeme」(2018)。受賞はマナブ間部賞展準グランプリ(2009、宇城市不知火美術館)、上野の森美術館大賞展優秀賞。作品は上野の森美術館、町田市国際版画美術館、宇城市不知火美術館、坂本善三美術館、つなぎ美術館に収蔵。

■ 高橋琢哉+松山真也

これまでに高橋琢哉と松山真也は、《MOMENTum》(2014、ミラノサローネ、クリエイターコレクティブ「KAPPES」として出品)や、賃貸マンション内に居住者専用の瞑想空間としてのインスタレーション《Expose》(2015)の制作のほか、東京国立博物館特別展「縄文-1万年の美の鼓動」(2018)の音響演出等で協働している。

□ 高橋琢哉(1975年 埼玉県生まれ) 作曲家 / 音楽プロデューサー

Oyster Inc.代表。環境音楽やフリージャズに影響を受けギターやエレクトロニクスによる即興演奏を中心に音楽活動を開始(1995-)。ダンサー田中泯の公演の音楽を担当(1999-2006)。以降、映像作品への楽曲提供、ニュースや教育番組のテーマ音楽の作曲・プロデュースのほか、「デザインの解剖展:身近なものから世界を見る方法」展(2016、21_21 DESIGN SIGHT)出品、東京2020特別企画展「文化のちから」(2017、パナソニックセンター東京)音響演出・サウンドデザイン等、多方面で活動。音楽を担当した主な受賞は「UNIQLO LUCKY LINE」(2011、カンヌ広告賞ゴールド受賞)、《SPORTS TIME MACHINE》(2014、アルスエレクトロニカ インタラクティブ部門 Honorary Mentions 受賞)、TAKT PROJECT《glow ⇄ grow》(2019、ミラノデザインウィーク出品、DSA日本空間デザイン賞2019金賞)等。

□ 松山真也(1978年 富山県生まれ) デザイナー / エンジニア

siro Inc.代表。工学系の大学を経て多摩美術大学大学院デザイン科修了。アーティスト・デザイナー・エンジニア・音楽家・研究者など、様々な分野のプロと協働して制作を行う。《AWAMOJI》(2002、富山ワンダーラボ、常設展示)、クリエイティブユニット「MONGOOSE STUDIO」として《fuwapica》(2007、「SPACE FOR YOUR FUTURE-アートとデザインの遺伝子を組み替える」展、東京都現代美術館)等を制作。また、野村在《Soul Reclaim Device》(2018、みなとメディアミュージアム)、村田朋泰《White Forest of Omens》(2019、Reborn Art Festival)、dividual inc.《Last Words/Type Trace》(2019、愛知トリエンナーレ)等、アーティストの作品の技術部分を多数手がける。

展覧会概要

会期	令和 3 (2021) 年 1 月 9 日 (土) - 2 月 14 日 (日)
休館日	月曜日 (1 月 11 日は開館)、1 月 12 日
開館時間	10:00 - 18:00
観覧料	無料
会場	東京都現代美術館 ホワイエ (1F)、情報コーナー (地下 1F)
主催	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館・アーツカウンシル東京
特別協力	深川資料館通り商店街協同組合
他	
企画	事業企画課 企画係 中野 詩



同時期開催 [2020 年 11 月 14 日 (土) - 2021 年 2 月 14 日 (日)]

企画展 「石岡瑛子 血が、汗が、涙がデザインできるか」

「MOT アニュアル 2020 透明な力たち」

コレクション展 「MOT コレクション 第 2 期 コレクションを巻き戻す」

MOT サテライトについて

江戸時代からの下町情緒や水辺の風景など魅力あふれるまちの特色に加え、近年ではカフェやギャラリーも賑わいを見せるなど、新旧の文化が交わる清澄白河。1995 年の開館以来、東京都現代美術館はこの地で活動が続け、国内外の現代美術を発信してきました。「MOT サテライト」とは、美術館の活動を館外に拡張し、まちなかでアーティストの作品展示やプロジェクトを実施することで、「まち=地域」の魅力を再発見しようとする試みです。2017 年春の第 1 回「往来往来」、2017 年秋の第 2 回「むすぶ風景」、2018 年秋の第 3 回「うごきだす物語」は、美術館が大規模改修のため休館中ということもあり、工場跡地や店舗、文化施設等、まちなかのスペースをメイン会場に展示やプロジェクトを展開しました。「2019 ひろがる地図」では、リニューアル・オープンした美術館に拠点を移し、館内の展示会場と近隣の複数の店舗で展示を行いました。最終回となる第 5 回「ハイファイブ - ところのこえ」では、美術館館内の 2 か所のパブリックスペースで 2 組・4 名の作家が展示を行います。

東京都現代美術館 広報班 宛

FAX. 03-5245-1141

画像請求書

広報用図版として 8 点をご用意しております。掲載ご希望の方はお手数ですが本請求書に必要事項をご記入の上、FAX またはメールにてご連絡ください。なお、写真の使用に際し、**キャプションは、作家名、作品名、制作年、コピーライト等を必ずご表記ください。作品のトリミング、編集、文字載せはお控えください。**本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認のための校正原稿をお送りいただき、掲載後には、掲載誌（紙）、HP リンク、DVD、CD 等を広報班宛てにお送りください。

媒体名：

発売・放送予定日：

種 別：T V ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー

ネット媒体 携帯媒体 その他

御社名：

ご担当者名：

E メールアドレス：

ご住所：

T E L：

F A X：

ご希望の図版番号に印をお付けください。

☐ 1 麻生知子《秋雨をあつめて早し隅田川》2020 年

☐ 2 武内明子《曇り空と排水機場》2020 年

☐ 3 ワタリドリ計画《お参り》2020 年

☐ 4 ワタリドリ計画《舟》2020 年

☐ 5 ワタリドリ計画《手彩色深川旅カルタ「と」》2020 年

☐ 6 ワタリドリ計画《手彩色深川旅カルタ「も」》2020 年

☐ 7 高橋琢哉＋松山真也《雷が船と鯰の夢を見た話》2020 年 制作風景

☐ 8 高橋琢哉＋松山真也《Subtracting Narrative》2017 年 [参考図版]

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL：03-5245-1134（直通）/ FAX：03-5245-1141

E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp URL：https://www.mot-art-museum.jp

※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。